

平成30年度 第4回堺市北区区民評議会 議事録

開催日時	平成30年10月10日(水) 午前10時00分～11時40分
開催場所	北区役所1階 大会議室
出席委員	天野委員・荒川委員・伊藤委員・大江委員・奥田委員・加我委員・小林委員 小松委員・椿委員・野田委員(五十音順)
事務局職員	吉田区長・田所副区長・堀井企画総務課長・六波羅課長補佐・中岡企画係長・阪口主査
出席職員	石井保健福祉総合センター所長・右川自治推進課長・鹿野協働まちづくり係長 谷村地域福祉課長・左近北保健センター所次長・金本子育て支援課長 西尾堺市社会福祉協議会北区事務所長
会 議	公開会議
傍 聴	傍聴者数4人
案 件	1. 開 会 2. 多世代交流・協生のまちづくりについて 3. 閉 会
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・北区区民評議会配席図</li> <li>・「多世代交流・協生のまちづくりについて」に関する取組例</li> <li>・「多世代交流・協生のまちづくりについて」答申書(素案)</li> <li>・北区市民活動団体による多世代交流に関する活動状況及び意向調査最終報告書</li> </ul>

議事の経過	
発言者	発言内容
加我会長	<p><b>1 開会</b></p> <p>皆さん、おはようございます。今年度4回目の区民評議会です。本日の会議では、次第にもありますように諮問事項についての議論、さらに答申書の提出に向けた意見交換を行います。これまでと同様に活発な議論をよろしくお願いいたします。</p>
加我会長	<p><b>2 多世代交流・協生のまちづくりについて</b></p> <p>それでは議案に入ります。</p> <p>多世代交流・協生のまちづくりについてですが、昨年6月に堺市長からの諮問を受けて、この会議で繰り返し議論を行ってきました。本日の会議では答申書の提出に向けて、これまでの議論の内容を整理した答申書の素案が資料2、さらに5月に実施しました多世代交流に関するアンケート調査の最終報告書が資料3として用意されています。それぞれの資料の内容について事務局から御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、資料について順に御説明いたします。</p> <p>まず資料2「多世代交流・協生のまちづくりについて」答申書（素案）について御説明いたします。</p> <p>こちらは、これまで委員の皆様にご議論いただいた内容について、答申書の素案ということで内容を整理したものです。表紙をめくっていただきますと、裏に目次がございますが、ローマ数字で項目立てしておりますとおり全部で6つの項目での構成となっております。各項目について概要を説明いたします。</p> <p>1 ページ目、「Ⅰ. 答申に当たって」といたしまして、区民評議会の設置目的、そして昨年に諮問を受けて以降のこれまでの北区区民評議会での会議の開催経過等の概要を記載しております。</p> <p>同じく1 ページ目ですが、「Ⅱ. 諮問事項」といたしまして、今回の諮問の内容について改めて記載をしております。</p> <p>2 ページ目には、「Ⅲ. 審議の経過」といたしまして、昨年度と今年度の区民評議会における審議の状況について記載しており、ページ中ほどからは、委員提案により北区において実施いたしましたアンケート調査の概要を記載しております。</p> <p>次の3 ページ目からは、「Ⅳ. 多世代交流・協生のまちづくりに向けての現状と課題」として整理しております。まず、取組の現状ということで、昨年度に取りまとめていただきました中間報告にも記載された内容を改めて示すことに加えまして、アンケート調査結果から明らかになった地域で実際に行われている特徴的な取組みについて、ヒアリング調査を行った概要を次の4 ページまで記載しております。こちらの内容についてそれぞれ簡単に御説明いたします。</p> <p>まず、1 つ目は五箇荘校区福祉委員会が実施されております「あさがお交流会」</p>

です。こちらは五箇荘小学校の1年生と地域の独居高齢者が昔遊びを一緒に行い、最後に1年生が育てたあさがおを高齢者へプレゼントすることで多世代交流が行われているものです。

2つ目は新浅香山校区福祉委員会が実施されております「新成人お祝いの会」です。こちらは北区での成人式の終了後に、地域の高齢者を中心としたスタッフが、新浅香山小学校の卒業生である新成人を対象に軽食の提供や地域の歴史にちなんだクイズを出題することで多世代交流が行われているものです。

4ページには、3つ目の取組として、大泉校区福祉委員会が実施されております「地域交流広場」です。小学校の春休み、夏休み、冬休みの長期休業期間中に子ども居場所づくりとして開設している場に、地域の高齢者が参加することで多世代交流となっています。

4つ目は金岡南校区福祉委員会が実施されております「三世代交流会」です。地域の子どもとその保護者世代、そして高齢者の三世代が一堂に会して人形劇やマジックショーを鑑賞して多世代交流となっているものです。

5つ目はグットタイムリビングなかもずが実施されております「クロスエイジプロジェクト」です。こちらは有料老人ホームであり単位自治会にもなっている当該団体が、大阪府立大学の学生と定期的なミーティングを行いながら施設の入所者に向けたイベントを開催することで多世代交流となっているものです。

6つ目は大泉緑地ヒーリングガーデナークラブが実施されております「公園散策ボランティアでの大学生との交流」です。大泉緑地の近隣に入所、通所されている車椅子利用の高齢者や障害者の方を招きまして、公園散策を行うボランティアを行っている団体が、活動のスタッフとして桃山学院大学の学生の方にも参加してもらうことで多世代交流を行っているものです。

最後に、7つ目はNPO法人子育てネットみちくさが実施されております「子育てひろばでの高校生との交流」です。こちらは市内で開設している子育てひろばに近隣高校の生徒が夏休み期間中にスタッフとして参加することで、利用者との多世代交流が行われているものです。

次の5ページは、主な課題を記載しております。こちらは委員の皆様からいただいた御意見に加えまして、アンケート調査における活動に係る課題等に関する設問の結果について抜粋しております。

次の6ページからは「V. 審議の方向性及び取組例」として、中間報告において整理された審議の3つの方向性ごとに、委員の皆様から御提案いただいた内容を整理しております。今年度の第2回会議以降より重点的に御議論いただいている取組例を「(1) 委員提案の取組例のうち、より効果的であると考えられるもの」とし、その他御提案いただいた内容については「(2) その他、委員から提案があった取組例」として整理し、それぞれの方向性ごとに掲載しております。本日の会議では、こちらの内容をより具体化、充実していただくことについて御議論いただければと思います。

なお、議論に当たっては合わせてお配りしております、資料1「「多世代交流・協生のまちづくりについて」に関する取組例」が同じ内容を整理したものとなって

おりますので、御活用いただければと思います。

答申書に戻っていただき10ページ目には、「VI. 答申の結び」として、審議を進める中で区民同士が支え合うことの重要性を改めて認識したことや、自治会を中心とした地域コミュニティの充実、活動の担い手の発掘・育成の重要性などを記載しており、この答申を踏まえて可能な取組みについての施策化や事業実施を期待する旨を記載し、答申の結びとしております。

11ページ以降は参考資料として、委員の名簿、会議の開催状況を掲載しております。またこの後御説明いたしますアンケート調査の最終報告書についても、答申書の別冊として取扱うものとなります。

資料2についての説明は以上となります。

続いて資料3「北区市民活動団体による多世代交流に関する活動状況及び意向調査最終報告書」について御説明いたします。こちらは前回会議においてアンケート調査の中間報告書を資料としてお示ししましたが、今回は最終報告書となっております。

1ページ目をご覧ください。今回の調査の概要を記載しております。内容については前回の中間報告書と同一のものとなっておりますので、説明は省略させていただきます。

次に、2ページから34ページまで、こちらはアンケート調査における設問ごとの回答状況を掲載しております。こちらにつきましても回答内容自体は、中間報告と同様となりますので、中間報告から追加となった項目について説明させていただきます。

2ページをご覧くださいと、設問の下に【全体】として、各回答の割合がグラフ化されており、こちらは中間報告にも記載されておりました。これに加えまして、今回はグラフの下に、【団体別】として、調査対象となった4つの団体ごとの回答の割合を新たに追加しております。同じくその下には、【その他意見】として、設問における回答の選択肢以外での回答があったものについて抜粋した内容を追加しております。

また、設問によっては複数の設問における回答を組合せて実施した集計、いわゆるクロス集計を行った内容を追加しております。例えば、4ページをご覧くださいと、「団体の活動地域での住民同士での関わりあいの程度」の回答結果と「住民同士の関わりあいを深めていくために必要だと思うこと」の回答結果をクロス集計した結果を掲載しております。

次に、少しページが飛びますが、35ページをご覧ください。35ページから37ページにかけては、アンケート結果からの地域における多世代交流活動の現状と課題を整理しております。地域における現状として、地域住民同士の関わりあいが深いほど、多世代交流につながる活動が多く行われていることから、地域でのつながりを深めることが多世代交流につながる1つの要因であると考えられること。また、活動内容に関する情報を広く発信していきたいと考えておられる団体が多くあるということが判明しました。

同じく課題として、これまでの区民評議会の議論の中でも挙げられております

<p>加我会長</p>	<p>「会員の高齢化・固定化」や「担い手の育成」、「若い世代の活動への参加」といったものが、地域での声としても実際に上がっている結果となりました。</p> <p>38ページからは、先ほどの答申書の素案でも御紹介いたしました、地域における多世代交流に資する特徴的な取組について、ヒアリング調査を行った結果の詳細を記載したものとなっておりますので、また御確認いただければと思います。</p> <p>資料3についての説明は以上となります。</p> <p>はい、ありがとうございます。本日は資料1について、答申書で言うと6ページ以降になりますが、こちらの記載について再度御確認いただきながら、もう少し具体化するような御意見をいただきたいということが1つ。</p> <p>そして、資料2の答申書については次回、次々回の会議で確認しながら確定させるということになりますので、答申書についてのご意見をいただくということが1つ。</p> <p>もう1つは、今までに委員の皆さんからいただいた御意見とともに資料のベースにもなっておりますのが、資料3として御説明いただきましたアンケート調査の最終報告書ということで、こちらは事前に皆さんにも内容を見ていただいているということもございますので、またお気づきの点等ございましたらアンケート調査結果のほうでも構いませんので、御質問、御意見等をいただきたいと思います。</p> <p>資料3については前回会議において、全体の回答についてのみが報告されておりましたが、皆さんから「団体ごとに回答を見てみては良いのではないか」や、「クロス集計や自由回答の分析をしっかりとすることが必要」といった御意見がありましたので、今回、各内容をまとめていただいております。</p>
<p>大江委員</p>	<p>資料2の1ページ目「I. 答申に当たって」の1行目では、「評議会は区民とともに…」となっていて、行政の立場は出てこないんですが、3ページ目「IV. 多世代交流・協生のまちづくりに向けての現状と課題」の2行目になると、「…市民との協働…」とあり、「1 取組の現状」の「(1) 市民協働の取組」の1行目では「北区では、市民との協働により…」という記載になっています。この文章の主体が行政になっていますが、評議会が提出する答申書としては、「市民の協働」という記載でいいと思います。</p>
<p>加我会長</p>	<p>評議会が提出する答申書として見た場合の書きぶりについてのご意見ありがとうございます。</p> <p>まず、この答申書は、北区区民評議会が出すものということです。1ページの下から2行目の「市民協働による…」という表現は良いかと思いますが、3ページの「市民との協働…」では主体が行政になっているように読めます。</p>
<p>吉田区長</p>	<p>これに関しましては、例えば3ページ目の該当箇所に関しましては、行政と市民の皆様での協働という部分になりますので、全体を見ながら誤解のないよう整理していきたいと思います。</p>

小松委員

その点については、私も気になっていましたので、ご指摘いただき、ありがとうございます。

それから、3 ページ目の2 行目「市民との協働や地域が主体となった様々な取組が行われている一方で」という書き方ですが、ここの「地域」という言葉の使い方がずっと気になっています。何か区役所があつて地域があるみたいな雰囲気になっていますが、ここの言わんとすることは、地域で活動する自治連合会などの団体やその住民という意味で使っていると思います。北区全般ではなく、各町というイメージです。

「地域」という言葉の意味の捉え方は、皆それぞれでイメージが違うと思いますので、「市民の協働や地域住民や団体が主体となった様々な取組」という感じに書かないと、共有できる文書にはならないと思います。

その他にも、答申書の素案を読むと、北区は課題だらけというイメージを受けてしまいます。今まで、「北区は頑張っているね」と話し合ってきたのに、この答申書は何かモチベーションが下がりそうな課題がいっぱいで、世代をつないでいこうと思っても、高齢者ばかりになっていて、活動が停滞するかもしれないというイメージになっています。なぜこのようなイメージを受けるかと思って、気が付いたことは、3 ページの「1 取組の現状」の「(1) 市民協働の取組」がさらっと記載されていて、その後に「(2) 地域主体の取組」と「(3) アンケート調査結果からの抜粋」だけが記載されており、現状の分析が少ないと思います。ところが、5 ページの「2 主な課題」になると、羅列しながらきっちり書き込んであります。ですから、現状のところをもっと豊かに表現しないといけないのではないかと思います。実際に、多彩な市民活動が展開されているわけですから、住民が元気に行政と一緒にフェスティバルを開催したり、まちづくりカフェの報告もありましたが、そういった活動もしています。行政としても区民活動支援コーナーが充実して、ボランティアフェスティバルなども今年はすごい盛り上がりでしたよね。そういった頑張っている住民の現状というのをもっと多彩に紹介していかないといけないと思います。

それで、この後にアンケート調査の詳細な報告書があるのですが、その報告書にもどのような活動をしているかという記載が少ないです。事前の説明の時に、より詳しい報告をいただいていたので、そこには活動団体の活動内容についても記載がありました。例えば、ボランティア団体の場合は、1 位が学術・文化・芸術・スポーツに関する活動で、2 位が保健・医療・福祉に関する活動になっています。NPO 法人の場合は、1 位が保健・医療・福祉に関する活動で、子どもの健全育成に関する活動が2 位になるなど結構詳細な分析が掲載されています。そのほかにも、社会教育やまちづくり、観光、環境の保全、災害救援、地域安全、国際協力など色々な分野で区民が頑張っているという姿が見えるようなアンケート結果も出ていますので、区民が多彩な自主的な活動で頑張っていることや、もちろん地縁団体、自治連合会などの団体の皆さんも多彩な活動をされているという紹介をもう少し反映させて、現状をしっかり記載していくべきではないかと思いました。

<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。他に関連してございますか。</p> <p>私も「地域」という言葉を使っていますが、この「地域」というのは、空間として、場所としてという意味があるものの、近年では、この場所に人がいるということで、人のことも含めて「地域」という使い方をしています。このアンケートの最終報告では、35ページから37ページにかけて、調査結果からの現状と課題について、まとめていますが、ここには、地域住民、地域の住民同士というような言葉が出てきています。恐らく、このアンケート調査では、少し人を強くイメージして記載しているので、地域住民という意味になっているかと思います。答申書においても、その辺をチェックして、人の暖かみのあるものにしていきたいと思います。</p> <p>それから、取組の現状について、小松委員の言われるとおりの、今までは「北区も捨てたものではないですね」と話し合ってきたと思います。ただし、「少し何かを足していけないといけない」ということを話し合ってきました。次の施策を実施していくために、これだけの課題があると記載した方が予算を取りやすいですし、危機感をあおりやすいということがあるのかもしれませんが、私も違和感なくアンケート調査からの抜粋ということで主な課題のところを見ていました。北区の取組としては「(3) アンケート調査結果からの抜粋」で、あさがお交流会や新成人お祝いの会など7つの事例や、この上の(1)と(2)で市民協働と地域主体の取組が紹介されています。さらにアンケート調査の方でも、35ページに「地域住民との関わり」の程度が強いと考えられる地縁組織において、「非常に親しく付き合っている」と「親しく付き合っている」を合わせた“親しく付き合っている”の割合が4割となっており、「あいさつをする程度の付き合い」の割合が5割となっています」とまとめられており、これは、あいさつからもっと親しくつき合ってほしいという思いだと思います。2ページには集計結果が掲載されていますが、「非常に親しく付き合っている」、「親しく付き合っている」、「あいさつをする程度の付き合い」までを含めると、約8割という状況です。この評議会でも、まずはあいさつをするということから始めたいと話し合っていたかと思いますので、これはすごいことだと思います。この北区の中で約8割の方々があいさつをするということを実践されているということです。この辺のところはいいことだと思いますので、答申書にも使っていただいて、さらにもっと北区の取組を充実させるような書きぶりを心がけていけたらと思います。</p> <p>他にお気づきの点はございませんでしょうか。</p>
<p>天野副会長</p>	<p>事務局に教えてほしいのですが、「地縁」という言葉が出てきていますが、「地縁」という意義をもう一度再確認したいです。</p>
<p>堀井企画総務課長</p>	<p>企画総務課の堀井です。「地縁」とは、主に自治会等の地域団体という意味で考えております。ボランティア団体とはまた別で、主に自治会と考えております。</p>
<p>天野副会長</p>	<p>自治会でも、地縁団体に所属してない自治会と地縁団体に所属している自治会と</p>

	<p>があります。どのような定義かといいますと、地縁団体に属しているものは固有財産、いわゆる自治会の財産が、そのものであるという認識です。大半の町会は固有の財産がなく、堺市からこういうものをつくりなさいと言われてつくり上げたものです。特に、新興住宅が多い校区はそういう組織がありません。この辺のところを、何か誤解を招くような書き方になっているのではないかと私は思います。皆さんもこの違いを知っておられるのならば、よいのですが、多分分かっていなくて見過ごしているのではないかと思います。ただ単に「地縁」と書いてあるからではなく、この辺についてももう少し掘り下げて、説明が必要ではないかと思います。</p>
<p>吉田区長</p>	<p>おっしゃるように誤解を招く表現といえますので、このあたりは法令上の地縁団体等との関係も踏まえた表現に替えてまいります。</p>
<p>加我会長</p>	<p>地域のつながりは非常に大事なことだと思いますので、もう少し皆さんの御意見をいただきたいと思いますが、その土地に住むことによって、縁が始まる関係が「地縁」だと思います。確かに古くは共有地があって、その財産を管理していくということから始まったかと思います。現代社会において、そうした共有財産がある場合とない場合がございしますが、その土地に住んでいるということから縁が始まるのが地縁組織で、必ずしも共有財産の議論はしなくてもいいのではかと思いますが、皆さんのイメージはいかがですか。</p>
<p>大江委員</p>	<p>おっしゃるとおりだと思います。土地だけではなくて、地域だけではなくて、できた地縁組織などもあります。ここの地縁組織とは、いわゆる土地の広がり、その範囲はどこかなど厳密に言う問題になってきますが、恐らく「地域」という意味で記載されているものだと私は思います。</p>
<p>天野副会長</p>	<p>いずれにしても、区長のほうからお答えがありましたように、この辺について明確にさせていただいて、「地縁」とは何かということをお互いに再確認をする必要があると思います。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。先ほどからの「地域」や「地縁」などは、多世代交流、それから同世代の方々が交流していく1つのつながりがどこで生まれるのかという議論につながっています。この評議会にとって非常に重要なことだと思います。それぞれ個々のイメージが違うにもかかわらず、共有しているかのように使っているということもあるかと思いますが、もう一度、「地域」とは何か、「地縁」とは何かということを考えるいい機会ではないかと思いました。この「地縁」という言葉の「地」は「土地」の「地」ですよね。この他に、「知る」や「知識」の「知」で「知縁」という言葉もあります。これはそのことを知っている人たちが集まる、片仮名でいくと「テーマ型コミュニティ」と言いますが、趣味を通じてや、サークル活動を通じて、高齢の方、それから障害をお持ちの方に支援をしたいとNPO法人ができ上がるなど、それぞれが知っていることの縁から始まるという意味での</p>



<p>伊藤委員</p>	<p>「知縁」といったこともあります。</p> <p>このことに関して、ほかにご意見はございますか。</p> <p>地域の共有の財産があるというのは、古くは土地や田んぼ、畑であったり、田んぼに引くお水や井戸、お祭りなど、その地域でずっと培ってこられたものがあると思います。現在、外から新たに転入してくる人と、元々の住民との間のコミュニティがなかなかうまくいかない状況というのはどこにでもあると思います。これまでもお祭りで太鼓をたたく人などが減っているとか、若い方の参加が減少しているなどの議論があったと思いますが、そこが大きな課題になっていると思います。ですから、そこを明確にして、乗り越えていくようなことも、今後考えていかないといけないと思います。外から来た人でも地域の行事に参加していきたいと思っている方もたくさんおられると思いますし、入ってこられると嫌だと思われる地元の方もおられるかもしれませんが、そこをお互いに乗り越えて共有していく、そこで地縁で結ばれていくというようなことが大事だと思います。</p>
<p>奥田委員</p>	<p>「地縁」についてですが、先ほどおっしゃったように、英語では「コミュニティ」になりますので「地域」、ある町なら町の自治会、単純にいうと自治会員が構成するところだと思います。実際に、自身が自治会役員をやっている時に、会館が個人のものだったため、それを地域で所有するためには地縁団体として法人格を持ちなさいということがありました。法人格を持つためには、どのような条件があるかといいますと、地域住民の半数以上を網羅した地域であるということでした。それだけの構成員を集めないと、法人格をもった地縁団体と認められないということです。</p> <p>ですから、法律的には、地域の大半を占めている集まりが「地縁」ということになると思います。それは、結果的には自治会のことをさすのではないかと私は感じています。</p>
<p>天野副会長</p>	<p>先ほど小松委員がおっしゃられた北区のいいところをもっと表へ出してほしいというご意見については私もそのとおりだと思います。しかし、課題の部分は、データを集積したもので、そのデータを分析すると確かに課題がたくさん出てきます。これは、アンケート自体がそういう設問になっているからです。ですから、その設問に対する答えですので、このような結果になるのは当たり前の話です。このことを踏まえた上で、これはあくまでも調査の結果ということで1つの括りにして、これ以外の部分で、調査はしていませんが、現実には北区にはこれだけのいい取組がたくさんありますと明示するべきだと思います。我々は、せっかくこうやって選ばれて委員になっているわけですから、この答申の中に、そういうものを明示することによって、我々が委員になったからこういうことがきっちり記載されているのだと思われるようなものができればいいと私は思っています。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>

天野副会長がおっしゃったように、これは「何か困っていることありませんか」ということを問いかけたアンケートです。でも、私はこんな見方もできますよということになりますと、例えば、「北区では、地縁組織団体が約200団体あって、さらにボランティア団体が70団体以上、NPO法人が60団体弱と多くの方々が日ごろから地域で御活躍されています」と書くのか、それを書かずに流してしまうのかなどがあると思います。先ほども言いました多世代交流の取組についても「団体活動を通じてあいさつをするであったり、親しくつき合うであったり、非常に親しくつき合っているという方々が、約8割いらっしゃって、活動を通じて人と人がつながっています」と書くか「あいさつは38.2%にとどまっています親しくつき合っているというところが、まだ35.8%である」と書くかによって、全然書き方が違ってきます。このような見方で、すごくいいなと思うところは少し褒めてあげるといふ書き方にして、さらに次に何が足りないのかということを書いていければいいと思います。

私がアンケートをする場合、対象は公園が多いです。私自身は公園が好きですから、公園で遊んでいる子どもたちがこれだけいますと、まず公園を褒めるということから見たくなります。ですから、論文を書く時には、こんなふうがいい点がありますよと、ただし、ここが欠けていますよと、プラスの目から書くということが癖づいています。このような見方もしていければいいと思います。

小松委員

今回のアンケートは、連合・町会の地縁組織、各種団体の地縁組織、ボランティア団体、NPO法人の4種類で設問の項目が若干違います。そして、地縁組織と言われる団体の皆さんにはどのような活動をしていますかという設問項目がありませんでした。しかし、ボランティア団体やNPO法人については、どのような活動をしていますかという項目があったので、それが反映された結果だったようです。先ほどのヒアリングを実施した団体については、たくさんの工夫をして地域で豊かな活動をされているということが反映されているわけですから、地域でどのような活動が展開されているかということをもっと知っていきながら、それを多世代の交流の場として、さらに活用してくための課題を明らかにしていくという方向性が大事ではないかと思います。

大江委員

今回の調査は多世代交流に関することがテーマとなっていて、多世代交流を推奨するため、どんな人達による多世代交流が可能で、多世代交流はいかにメリットのあるものであるかということを検証したかったのだと思います。調査目的に必ずしも合わない回答もありますが、調査結果の読み方として、多世代交流は重要なことで、推進するためには一体何が必要なのか、どんなヒト、モノ、カネ、そして考え方や意識が必要なのかといったことを読み取ることが重要であると思えます。

加我会長

ありがとうございます。調査結果から重要な部分を上手く読み取ること、また何が課題となっているかということを読み取ることが必要であると思えます。

答申書の内容について、今回は本当に素案ということですので、今日ご意見をい

<p>小林委員</p>	<p>ただいたほうが、次回以降の内容が充実していくかと思しますので、何か気になっていることありましたら、お話いただければと思います。</p> <p>現在、こども会の行事日程は固定化しているのですが、実は来年度に日程を大幅に組み変えないといけない事情が出ています。というのは、夏のスポーツ大会として、8月の第1週に中央スポーツ大会を実施しています。既に決定したことで、この場で言っても良いかと思しますが、やはり8月にスポーツ大会を屋外で実施することはとても危険だということで、来年は12月の実施に変更することがほぼ決定しております。それに伴い、今度は冬に実施している将棋・オセロ大会が、今後は夏に実施するというような行事日程の組み換えを検討中です。中央スポーツ大会の日程が変更になると、全ての行事日程を組み変えないといけないということで今、役員が検討していますが、多世代交流というかいろんなところで協力していただきたいということもございまして、現状だけお伝えさせていただきます。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。確かに今は運動会も夏はもとより10月でも苦しいと言われてます。確かに夏に大会をされていますが、今本当にこれだけ暑かったら危険ですね。</p>
<p>小林委員</p>	<p>今年度も8月の第1週に中央スポーツ大会を行いました。物凄く暑い中で、ソフトボールは、決勝戦まで行くと1日3試合しないといけないというチームが出てきます。しかし、現場の指導者が子どもの状態を見ても流石に3試合はちょっと無理だといった意見もあります。また、審判を連盟に頼っていますが、第1試合から体調が悪くなられた審判の方が出たというような状況で、準決勝までの2試合はその日に行いましたが、決勝戦は次の週の予備日に行いました。そういった状況ですので、夏季の実施は困難だということで、来年度は12月の第1日曜日に実施することにほぼ決定しております。</p>
<p>加我会長</p>	<p>来年度は屋内型の行事が夏の実施に、屋外型の行事が冬の実施になるということですね。委員の皆さんの中でも応援や支援をしているということがあるかと思えます。また地域行事の日程を決める際に、こども会の行事に合わせて調整することもあるかと思しますので、御協力をお願いします。</p>
<p>椿委員</p>	<p>こども会の行事日程は、こども会の組織内で日程が決まりますが、そうなる地域の中で、こども会と連携したいという気持ちがあっても、なかなか日程が合わなくなります。こども会の組織自体が存在しないところは、地域と密着していろいろと自治会が運営する行事に合わせて、多世代交流もできると思いますが、我々がいろんな行事を申し出ても「日程が既に決まっちゃっている」と言われてしまいます。今度、防災訓練を学校で実施しますが、学校は全く感知なくて、「こども会が賛同してくれば良い」といった感じで、こども会にも参加を依頼し、許可を得るというような状況です。もう少し年に何回か地域や学校と連携できるような日程</p>

<p>小林委員</p>	<p>を組んでもらいたいと思います。</p> <p>今までは、毎年の恒例行事の日程はほとんど決まっており、地域の防災訓練や校区の連合運動会などの日程との調整をしながら、1月には次年度の日程をほぼ決定します。その後、各校区の代表者に日程を持ち帰ってもらい調整していただくお願いはしていますが、なかなか連携が上手くいってないのは事実です。来年度は先ほどお伝えしたような事情ですので、なるべく早く連絡するように、校区の代表の方に申し伝えます。</p>
<p>奥田委員</p>	<p>こども会ですが、活動が活発な地域と不活発な地域があります。こども会としても、北区全体での行事や校区内での行事など数多くの活動があります。しかし、不活発な地域のこども会は、行事を世話する保護者の方がだんだん少なくなり、役員の負担が増加します。その結果、更に活動が不活発になっていき、組織がなくなっていくという傾向があります。我々の校区もなくなっていく方向にあります。ゼロかというところではありません。保護者の方に聞いてみると地域のこども会の場合は身の回りにいる子どもですが、学校へ行くと他の町の子とも遊んでいます。そんな中でよく聞くのは校区内の町内間の行事が欲しいという声をよく聞きます。何らかの形でこども会という組織はなかったとしても、やはり子ども相手にしたプログラムというのは、多世代交流においては意識したほうが良いと感じています。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。資料1で言うと「地域の防災訓練に子どもを参画させる」であったり「誰もが参加的なスポーツを通じた交流」ということや「異年齢児の交流促進」、「イベント実施に際して子どもを企画段階から参加させる」といったプログラムなど、多世代交流の重要なターゲットの一つが子どもであるということは、この評議会においてもずっとお話しいただいているかと思います。</p> <p>今日だけでなく、もう今までに大体言い尽くした感もあるかと思いますが、他に皆さんございませんでしょうか。</p>
<p>奥田委員</p>	<p>私は青少年指導員として、各種団体に所属しています。青少年指導員会は、青少年を対象に活動していますが、昨日大阪府立大学のV-stationへ行ってきました。そこで我々の青少年指導員会という組織とV-stationの大学生を相手としたボランティア交流を図るというノウハウを繋ぎ合わせた計画や企画ができないかということで、話し合いをしました。いろいろなノウハウを持っているので、そういったところで、多世代交流というのが図ることができるかと思っています。ですので、それぞれの団体が持っている課題や、これからどう活動するべきか、ということについて、もう少し議論を進めていくのも多世代交流を進めていく上で必要かと感じました。</p>
<p>加我会長</p>	<p>今、大阪府立大学にはV-stationがあり、北区では区民活動支援コーナーがある</p>

<p>奥田委員</p>	<p>中で、自分たちが持っているノウハウであったり、それを踏まえて次の活動に繋げることを相談できる窓口といったものが非常に重要になります。また、各団体が持っている長所などを共有するための団体同士の交流会の開催であったり、成功事例についての情報交換会や事業見学会というようなことを実施することが重要だと思います。</p> <p>大阪府立大学は入口の門で止められるわけではなく自由に出入りが可能でした。若者だけではなく、年配の方も一緒になって話したりしているので良い雰囲気だなと感じています。新金岡市民センターに区民活動支援コーナーがありますが、あちらの施設はどちらかというと、子育て世代と高齢者が主なターゲットになっています。そこをもう少し若者も集まるような雰囲気になれば良いと思います。V-stationでは、コミュニケーション検定の資格を持った人がいますが、そういったボランティア交流の資格的なものを持った人を区民活動支援コーナーにも配置し、交流を図ることができるような、あるいは特に課題などがなくても、そこへ行けば何かあるのかなど、話できるかなというような気楽に行ける場所にもう少しなれば良いと思いました。</p>
<p>野田委員</p>	<p>夏休みに東区の小学校へ子どもと一緒に訪問するというイベントにNPO法人を通じて行ったことがあります。そのときに子どもたちがサイコロを振って、出た目にある質問をして、それに大人が答えるというプログラムがありました。その中で子育てのこういうことが大変だ、といったことを答えましたが、子どもたちが一番食いついていたのが、どうして結婚したのかといった馴れ初めについてや、プロポーズの言葉について、というような質問でした。高齢の方と子どもとの交流というと、戦争体験を語ったり、昔の話をしたりすることが一般的だとは思いますが、例えば金婚式などの場を活用し、結婚をして、子育てをして、今に至るまでにこういう苦労があったよ、といった話をするなど、もっと視野を広げているんな機会に、今までになかったような取組として、多世代交流を盛り込んでいけば、もっと市民の交流が活発になり、深まっていくのではないかと感じました。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。ちょっと忘れてしまっていたことかもしれません。若い世代というと、「彼らは何もしないから、こちらから手助けを」という気持ちだったかもしれませんが、反対に「我々が持っているものを彼らに伝えないといけない」ということもあるかと思います。</p> <p>少し大阪府立大学の話になります。今、各防災プログラムのお手伝いをしたりだとか、子どもへの遊びのプログラムを教えたりだとかいうことをボランティア活動でやっておりますが、私が学生的时候は、大学というのは恐らく関係者以外立入禁止だったと思います。近頃は「開かれた大学」ということでセキュリティ上大丈夫なのかとも思っていましたが、場所として緑豊かなところですので、毎日のようにウォーキングで来られている方々もいらっしゃいますし、近所の保育所の方が園外保育で使っていたりだとか、お食事を楽しんでいただいたりするという場所</p>

になっており、まずは場所として開くということがきっかけになるのかもしれませんが、V-stationを始められた担当の方は、学生が座れる場所、集まれる場所を作るということから始められ、今や一大ボランティアグループといえますか、その支援組織になっています。まずは、そこに行くということのきっかけをつくる、安心してそこに行ける場所の設定ということが、大事なのだと思います。

多世代交流とは、全然関係ございませんが、皆さんは台風での被害とかはありましたか。台風21号では、このあたりで風速50メートル近くだったかと思えます。沿岸部では風速60メートルとも言われています。大学のキャンパス内でも、百数十本もの樹木が倒れました。日頃の管理が悪かったのではないかと指摘もありますし、しっかりと根が張らないというようなそれぞれの樹木が持つ特性もあります。また、もともと田んぼの上にある土地であることから土が薄いという要因もあります。いずれにしても風速40メートル以上もの風が吹きますと、物理的な衝撃が強過ぎて倒れてしまうということがあります。今後、発生するであろう地震災害に対してや、今回のような風水害も頻発するということも言われておりますので、そんな災害への備えにおいても、この多世代交流・協生のまちづくりということが生かされるのだと思います。

椿委員

先日の台風21号のときにうまく対応できなかったこともあり、台風22号の際には避難状況の確認に行きました。台風21号のときは2名しか避難していませんでしたが、台風22号のときは43名が避難されておりました。その時に、何の準備もできていませんでしたが、避難された方々から何か食べ物がないかと聞かれました。今後は、食べ物などを提供できるような体制が必要だと思い、自治連合会などと協議しようと思っています。

加我会長

訓練で学ぶこともありますが、実際に体験することで、今後どうするべきかといったことが深まっていくと思いますので、日々蓄積していくことが大事だと考えます。今回の大阪北部地震の時に帰宅困難者を発生させてはいけないということを改めて認識して、その後の対応として、西日本豪雨や台風21号の際には、早い段階で出勤を控える判断をした企業があったり、交通機関も計画的に運行を取り止めるなど、災害への備えができていたと思います。

それでは、本日はこのあたりでよろしいでしょうか。

答申書は次回の会議においても、議論をしていただくこととなります。本日いただいた意見としては、「地域」という言葉、「地縁」という言葉の整理、評議会の立場での文章となっているかどうかの確認。また、北区の現状は捨てたものではないということを整理し、何を足せば良いのか、何を除けば良くなるのかといった視点で課題の部分を整理すること。そして、取組例については、高齢者の方との関わり方というようなところを少し強調することになるかと思えます。

大江委員

少しいいですか。夏に北区役所で子ども向けのキャンプを開催したと思いますが、どこが主催でしたか。

右川自治推進課長	自治推進課で企画させていただきました。
大江委員	あの取組も、非常に有効な多世代交流だと思います。この取組も本当はもっと広く発信すべき事業だと思います。評議会が提案して企画することになったのであれば、他区がやっている例えば観光案内の取組のように実験的に進めていくべきではないでしょうか。
加我会長	昨年の評議会の議論において防災の話も出ていたかと思いますが、その中で多世代交流という話もありました。その中の多世代交流については、今年度にさらに重点的に議論するという事になってはいますが、これまでに区民評議会でもいただいた意見を受けて区のほうで実施されたのだと思います。
奥田委員	確かV-statitonと一緒に開催した企画だったかと思いますが。昨日V-statitonに行きましたが、V-statitonとしても防災キャンプについてはノウハウとして残っているそうですので、今後いろいろな団体と連携し、活動していく中で活かされていくと思っています。
加我会長	まちづくりカフェについても、今までの議論を受けて実施されているということですので、ここで議論されたことが、今年度もしくは来年度につながっていくのだと思います。区役所が主催ではありますが、V-statitonと連携したり、いろんな団体と協力したりすることによって実現できたのだと思います。
右川自治推進課長	そうですね。府大のボランティアの皆さんや、防災士会の協力等を得て実施しました。今回のイベント自体は世代間交流という部分に関して言うと、乏しかったかなと思いますが、今後それを地域の皆さんと、世代間交流のツールとして、使っていただけたらなと思っています。
大江委員	そうですね。実際は地域のあちこちで多世代交流が行われています。しかしそれを意識してやるということが非常に大事だと思います。そうすることで、各自治会でも、やっぱり多世代交流は大事だと考えるきっかけになるのではないかと思います。なぜ多世代交流が大事なのかと言われると皆さん困っているみたいですが、歴史文化の継承だとか、それからキーパーソン、リーダーをどう引き継いでいくかという問題も含めて、非常に大事なことです。アンケート調査の結果を見ましても、多世代交流には自治会が大事だということが分かり、自治会の重要性というのはどの団体も言っています。NPO法人も、自治会との連携を視野に入れています。NPO法人やボランティア団体は、大体活動の目的が決まっているので、全体の連携などを考えたりしないんですが、そういう発想があるということは注目してもいいのではないかなと思います。

<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。他皆さんのほうからよろしいでしょうか。  では諮問事項については、ここで終えたいと思います。  次に前回会議で意見聴取をしていただきました。北区まちづくり自主活動補助事業の採択の可否について、自治推進課から報告がありますのでお願いいたします。</p>
<p>右川自治推進課長</p>	<p>自治推進課の右川です。着座にて説明させていただきます。  ただいま会長から御案内がありましたとおり、8月1日に開催されました第3回区民評議会におきまして、委員の皆様へ御審議いただき貴重な意見を頂戴いたしました。北区まちづくり自主活動補助事業の審査結果について御報告申し上げます。  応募がありましたのは、♪HAPPY 子育て ☺ マルシェ 実行委員会から「♪HAPPY 子育て ☺ マルシェ」。長尾 i c h i まつり実行委員会から「長尾 i c h i まつり」。北八下やしモン♪田んぼアートの会から「田んぼアートでやしモン♪を描こう」。マリリンの家から「お年寄りと子どもたちの千羽鶴でつないだ地域と東北の輪と学びの報告会」。堺だよりから「堺市民目線による多世代の情報交換・発信と交流会」の5事業でございます。  委員の皆様からいただきました意見を踏まえまして、8月2日に堺市北区まちづくり自主活動事業審査会規約に基づき、審査を実施した結果、堺だよりから提案のありました、フリーペーパーの作成にかかる部分については、「単に市の報道提供をもとに発信するものであり、広域への配布に困難性を感じる」と言う意見が多く、それらにかかる経費を除いた部分のみ採択しまして、その他4事業については申請どおり、同日付区長決裁を終え採択となりましたことを報告申し上げます。  既に、事業を実施しているものもありますが、実施報告については、事業の進捗状況を見ながら委員の皆様方と相談の上改めて、行わせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。採択内容の変更も含めてではありますが、全ての事業について採択されたという御報告です。既に実施されている事業もありますが、これから実施される事業については、前回皆様からいただいた意見も踏まえ、充実した事業となること、またそれぞれの事業が成功されることを願っています。  それでは、これで第4回北区区民評議会を終了いたします。  ありがとうございました。</p>